

『芽生えの季』

中学校生活初めての四中祭が終わりました。午前中に合唱コンクール、午後には各出演団体による素晴らしい発表が行われましたが、どの発表も素晴らしい圧倒されたことと思います。

本番までの練習の中で、仲間と協力し支えあいながら努力した経験は、これから的学生生活にも必ず生きていきます。感動を与えてくれた皆さんに拍手を送ります。

～四中祭を終えて～ 生徒作文より

「四中祭の振り返り」

1年1組

僕が四中祭で、心に残ったことが一つあります。それは合唱コンクールのことです。

僕は指揮者のオーディションに受かり、自由曲の My Own Road の指揮をすることになりました。小学生の時に合奏で指揮をした経験がありました。でも、合奏と合唱は違って合唱の指揮はとても難しかったです。

例えば合奏にはない歌があって、伴奏や指揮がずれてしまえば歌もずれてしまい、そこを踏まえて練習時に伴奏者とコミュニケーションをとって本番に備えたかったのですが、うまくいかず、いつもバラバラで指揮もとぎれとぎれになってしまい、毎日の練習が終わって、本番が不安で悩みながら帰っていました。でもみんなが支えてくれたので、やる気が出て、練習が頑張りました。

そして迎えた本番では何回か間違えてしましましたが、指揮がずれてもみんなが歌い続けてくれたので、指揮を修正することができました。でも自分のミスで最優秀賞を取り逃したと思って結果発表までずっと不安でした。しかしその中で最優秀賞を取ってとてもうれしくて僕は泣きました。この最優秀賞は、誰か一人がミスをしたとしてもみんなで助け合ってミスを補うということを僕に教えてくれたのかな、と思いました。

「四中祭の振り返り」

1年1組

四中祭で最優秀賞を取れてうれしかったです。またそれまでの努力を振り返ってものすごく誇らしげになれました。皆であわせるだけでなく、パートごとの苦手な部分をずっとずっと歌い、けんかすることもあったけれど力を合わせて歌いました。

何を歌ったかというと課題曲「夢の世界を」、自由曲「My Own Road」です。課題曲はクレッシンドや伸ばしなど記号が多く、自由曲では1組らしい楽しさ、元気さなどがたくさん入っていました。指揮者、伴奏者共に息があついて歌うのも心が楽になりました。パートリーダー関係なく意見を出しあって作った四中祭は素晴らしいものでした。

ぼくたちは、曲の個性を極限までひねり出し、頑張った結果最優秀賞というものを勝ち取りました。2組、3組がいたからこそ成功した四中祭だったと思います。来年はクラス替えもあり、仲間も変わることけれど、みんなで協力して頑張りたいです。

「七転びハ起き」

1年2組

結果発表、それはあの時、あの場で私にとってとても怖いものだった。私達1年2組は、前回の大イベント、運動会で惨敗し、その悔しさからやっと立ち直ることができて、この四中祭にいどんだ。次こそは、という思いを胸の中に秘め、クラスのみんなの前でたくさん歌い、家でも練習した。だが、その思いはどこのクラスも同じ。だからこそ結果発表はとても私には怖かった。結果発表がされる直前、わらにもすがる思いだった。だが、その結果は、1組が最優秀賞を取り、1組の四中祭実行委員が壇上に上がっていた。その瞬間私の胸に秘めていた思いがぶわっと一気にあふれ出てきていた。くやしいと思いながらも言葉より涙が出てくる。この四中祭が1年生最後の皆で取り組んで作り上げるイベント。だから、もっと悔しかった。

その日は目が赤くなるまで泣きはらした。だが、私たちはこれからも前を向いて歩いていかなければならない。

そこから私たちは立ち直り、今までの、普段通りの生活を続けている。だが、四中祭と一緒に盛り上げててくれた、他のパートリーダー、四中祭実行委員、指揮者、そして伴奏者の方々に感謝の気持ちと申し訳ないという気持ちは絶えない。だから来年2年生になったら、この気持ちを踏み台にし、次のクラスでは、今の私達より数段レベルアップした私達で最高の歌を皆の心に響かせたい。

まさに、私たちのクラスは何回転んでも起き上がる「七転びハ起き」を代表するようなクラスだと思っている。

「四中祭」

1年2組

まず、四中祭が無事に終えられたことが一番よかったです。でも、クラスみんなで力を合わせて合唱の練習を一生懸命してよい合唱をすることが出来たのに、最優秀賞を取れなかつたのは残念でしたが、クラスの人たちとの絆は確かに深まつたと強く思っています。四中祭が終わつた今でも、夜寝るとき、「夢の世界を」と「空は今」が頭の中でたくさん流れています。それほどクラスで一致団結して練習したんだと思います。もしも練習でやる気がなかつたら今年1年2組が歌つた2曲なんて頭の中に強く残らないと思います。

また、それ以外でも、弁論大会やソーラン節などの午後の部もとても印象に残っています。特に弁論大会が印象に残りました。アザラシについて、フライドポテトについて、駅メロについての個性あふれるようなテーマの弁論を見ることが出来て、なんだかTBSのマツコの知らない世界を見ているようでした。ひとつのものやことについて数分間あんなに熱く語れるのがすごいと思いました。そして、吹奏楽部のアニソンメドレー、黒法被隊による四中ソーランなど、どれも四中生徒全員が盛り上がってとても楽しかったです。

四中祭は先輩方の情熱を感じました。また、自分は2組の仲間と一緒にがんばることができてよかったです。来年は合唱で1位を取れるように頑張りたいです。

「四中祭」

1年3組

四中祭で一番楽しかったことは何ですか。僕は四中祭の全部が楽しかったけど、一番楽しかったのは、クラスのみんなで歌つた合唱コンクールでした。初めての四中祭で、この1年3組で歌う最初で最後の合唱コンが一番楽しかったです。理由は、みんな毎日頑張つていて、西脇先生の授業やクラスでの練習を重ねるうちにみんな上達していて、自信がついていったからです。また、その練習していた毎日もとても楽しかったです。しかし、優勝することはできませんでした。結果は1組が優勝しました。クラスに戻つた時、くやしがつていた人もいましたが、すぐに3組らしく前向きになり、11月に行われる期

末テストでは全教科のクラス平均点を1位にする、という目標をつくりました。来年は別のクラスになりますが、お互いに美しい歌声で競い合い、楽しくやりましょう。

「最高の1年3組」

1年3組

四中祭の本番の日が終わりました。その中で僕が今回四中祭で頑張ったことを、2つ紹介します。

1つ目は、歌詞に気持ちを込めることです。歌の歌詞には様々な気持ちが込められています。例えばうれしい気持ちや悲しい気持ちがあり、その気持ちによって強弱に気を付けたり、リズムに気を付けたりして工夫しました。

2つ目は、自信をもって笑顔で歌うことです。今まで色々な練習をしました。パートごとに分かれたり、混合で歌ったりしました。みんなで協力して助け合ったから本番は自信をもって歌えました。練習期間は2週間だけだったけど、こんなにまとまつたのはすごいと思いました。

この四中祭では1年3組の楽しさや明るさを改めて感じることができました。どんなことがあってもあきらめないで助け合ったり、心をひとつにして頑張っていきたいです。





保護者の皆様からたくさんの応援やお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございました。